

事業目的



- 20本以上歯がある人に比べ、歯を失って入れ歯を入れていない人では、認知症の発症リスクが **1.9倍**
- 歯がなく、入れ歯も使用していない方の転倒リスクは **2.5倍**

認知症予防、口コモ予防にも口の状態が関係するとの研究データが示されています。

(Yamamoto et al., Psychosomatic Medicine, 2012)

(Yamamoto et al., BMJ Open, 2: e001262, 2012)

- 歯科専門職が他職種と連携・協働することで、地域の口腔のニーズを拾い上げ、歯や口を健康に保つことが、生活機能を維持・向上や疾病の予防にも関わる事を啓発する。



推進されたこと



- 口腔衛生状態や口腔機能の維持、誤嚥性肺炎や低栄養予防の為に効果的なサービスの利用方法を検討し、関係者間で支援に関する課題に関して意見交換ができた。
- 地域ケア会議等で抽出された課題に関して、その解決に向けての多職種連携・協働の状況を把握できた。



今後の取り組み



- 歯科治療や専門的な口腔ケアが、栄養改善、肺炎の予防につながる効果があることだけでなく、認知症やロコモ予防にも関わっていることを住民に周知する。
- 住民の、「食べる」、「話す」、「笑う」といった生きがいを支えることを目的とし、歯科専門職が他職と継続的に連携・協働することを推進する。

